

検証環境 ※CPUとマザーボードのみ異なる、後は共通。

CPU	Ryze 9000 シリーズ	AMD[Ryzen 9 9950X3D] (16コア/32スレッド、最大5.7GHz) AMD[Ryzen 9 9900X] (12コア/24スレッド、最大5.6GHz) AMD[Ryzen 7 9700X] (8コア/16スレッド、最大5.5GHz)
	Core Ultra 200S シリーズ	インテル[Core Ultra 9 285K] (24コア/24スレッド、最大5.7GHz) インテル[Core Ultra 7 265K] (20コア/20スレッド、最大5.5GHz)
CPUクーラー	EKWB[EK-Nucleus AIO CR360 Lux D-RGB] (簡易水冷、360mmラジエーター)	
ビデオカード	ASRock[Radeon RX 9070 XT Taichi 16GB OC] (RX 9070 XT、16GB GDDR6)	
マザーボード	Ryze 9000 シリーズ	ASRock[X870E Taichi] (AMD X870E、BIOS 3.40)
	Core Ultra 200Sシリーズ	ASRock[Z890 Taichi] (インテル Z890、BIOS 3.09)
メモリー	Ryze 9000 シリーズ	Crucial[CP2K32G64C40U5B] (32GB×2、DDR5-5600)
	Core Ultra 200Sシリーズ	Crucial[CP2K32G64C40U5B] (32GB×2、DDR5-6400)
ストレージ	Crusial[CT2000T700SSD3](2TB M.2 SSD、PCIe Gen 5)	
電源ユニット	ASRock[TC-1300T](1300W、80 PLUS TITANIUM)	
OS	Microsoft[Windows 11 Pro](24H2)	

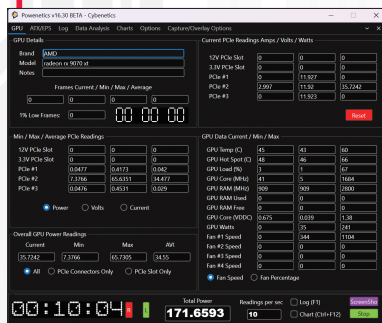
Benchmark

CPUコア数によって 左右されるアプリもあるが 消費電力は圧倒的に 競合よりも優秀!

ゲームでは天下を取っているAMD Ryzen™だが、クリエイティブの領域ではどうなのか。そこで、AMD「Ryzen 9000シリーズ」と、インテル「Core Ultra 200Sシリーズ」を使い、複数のクリエイティブアプリで性能を比較した。注目は物理コア数の違い。Ryzen側はSMT※1を利用し、論理的に32コア/24コア/16コアで運用できる。一方で、Core Ultra側はHT※2非対応のため24コア/20コアだ。物理コア数だと、下位2製品のコア数の差は倍以上になるが、Core Ultra 7 265Kの物理コアの大半は電力効率重視のEコアであり、性能重視のPコアは8コアとなっている。

検証

消費電力は圧倒的にRyzenが優秀
Ryzen 7の扱い易さはピカイチ



HandBrake 利用時における CPUの消費電力

◀HandBrakeにおけるエンコード (Super HQ 1080p30 Surround) 作業中に実施。消費電力は電源ユニットとマザーボード間に電力計測デバイス「Powerenetics v2」を挟み、CPUの補助電源ケーブル2本に流れる電力を計測。

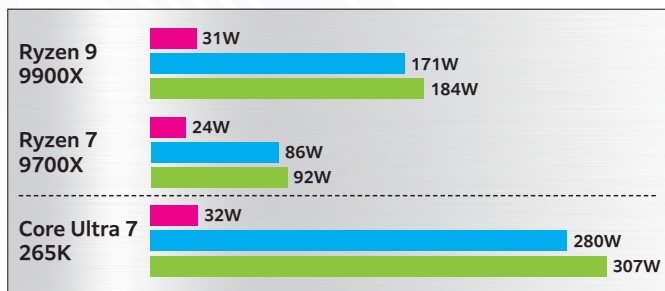
ハイエンド

◀Better



メインストリーム

◀Better

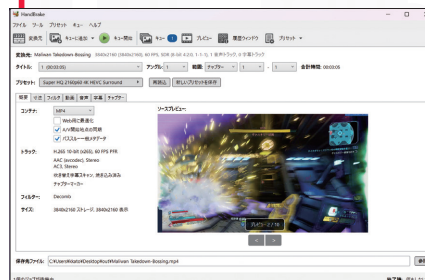


■ アイドル時 ■ 高負荷時 (avg) ■ 高負荷時 (max)

検証

Ryzen 9 9950X3DはH.265だと
Core Ultra 9 285Kとほぼ同着

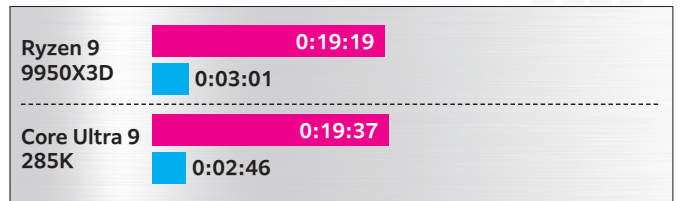
HandBrake v1.10.2 エンコード時間



◀再生時間3分の4K動画を用意し、これをプリセットの「Super HQ 2160p60 4K HEVC Surround」「Super HQ 1080p30 Surround」を利用してMP4形式に書き出す時間を計測。どちらも2パスエンコード設定だ。

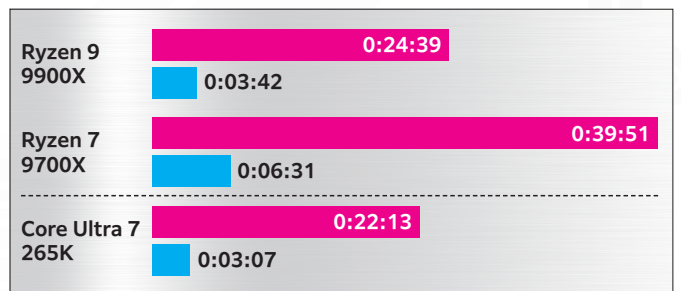
ハイエンド

◀Fast



メインストリーム

◀Fast



■ Super HQ 2160p60 4K HEVC Surround ■ Super HQ 1080p30 Surround

※1 SMT:Simultaneous Multithreadingの略。

※2 HT:Hyper-Threadingの略。